

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目 的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成 果

1. アート・ドキュメンテーション学会美術館図書室SIG (Special Interest Group) と当研究所との共催で5月14日にセミナー室において研究会「アート・アーカイブの今」を開催した。
2. 当研究所刊行の論文をJapanese Institutional Repositories Online (JAIRO) へ掲載することを實現し、結果、国立国会図書館のNDLサーチ、国立情報学研究所のCiNii Articleでも論文をフルテキストで参照できることとなった。
3. 文化財関連文献情報のデータ群の世界発信に向けて欧米で広く使われる学術情報データベース「OCLC」へ提供するべく協議を重ねた。
4. 6月27日に国立西洋美術館との「文化財情報の海外発信にかかわる基盤形成事業実施にかかわる覚書」を締結した。
5. 11月30日にJALプロジェクトの一環として日本に招へいされた海外日本美術史料専門家(司書)との意見交換会を行った。
6. 12月に奈良国立博物館・東京文化財研究所編『国宝 絹本著色 十一面観音像』(2016(平成28)年3月)に基づいてデジタルコンテンツ化し、Web上での公開を行った。
7. 2月13～18日に、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録についての運用面での協議を現地で行った。
8. アメリカ・ゲッティ研究所への図書及び文献情報の提供に向けての協議を重ね、3月19～24日に現地で本年度の確認協議を行った。

発 表・橘川英規：「東京文化財研究所における文化財に関する専門的アーカイブの拡充ー『日本美術年鑑』のコンテンツを国際的学術基盤へー」EAJRS (日本資料専門家欧州協会) ルーマニア・ブカレスト大学 16.9.15

・津田徹英：“On some characteristics of Japanese traditional portraits known as *Nise-e* (likeness picture)” イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 17.2.16

研究組織 ○津田徹英、佐野千絵、皿井舞、安永拓世、橘川英規、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、城野誠治、福永八朗 (以上、文化財情報資料部)、久保田裕道 (無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人 (保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、津村宏臣 (客員研究員)